

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価 (3月18日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	○単位制総合学科の利点を生かしたカリキュラム・マネジメントに学校全体で取り組む。 ○生徒の主体的な学びと確かな学力の定着に向けた、「系列」に応じた系統性のある学習の推進。	①新旧の教育課程が混在する中で生じる問題点に対処する。 ②生徒が主体的に学べるよう、進路希望に応じた適切な科目選択を目指す。	①本年度、新旧の教育課程の生徒が同時に履修する科目がある。成績処理等を適切に行う。 ②昨年度完成した履修ガイドブック、科目選択のガイダンス資料を実際に運用する。修正を加え、さらに充実を図る。	①該当する科目で成績処理等が適切に行われたか。 ②履修ガイドブック、科目選択のガイダンス資料が適切に利用できたか。修正等が適切にできたか。	①新旧教育課程の履修する科目について教科代表者間で問題点の周知、共有を図った。成績処理等に関して問題なく進めることができた。 ②履修ガイドブック、科目選択のガイダンス資料を宿泊研修や履修ガイダンスで適切に活用できた。	①今後は新教育課程で科目設置などを各年次・各教科と連携し、問題点の把握に努めたい。 ②キャリア支援グループと連携して進路実現のための履修例や、3年間の科目選択、履修順序の例など更なる充実をはかる。	各教科における観点別評価や成績処理等に関して共通理解を図り今後も教科代表者間で問題点の周知や情報を共有して欲しい。	①総合学科は履修する科目が多岐に渡るが職員間で課題点や問題点の共有を図ることができた。 ②適切に科目選択や科目履修ができるよう今後も履修ガイドブックを活用しバージョンアップ継続する。	①今後も魅力特色ある新教育課程を展開し特に履修科目について問題点や課題点を抽出して適切に対応したい。 ②生徒の進路実現のために自分の進路に合った科目履修など学校全体として取り組む。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	○部活動の更なる活性化を通して、魅力特色のある学校づくりを推進する。 ○SC、SSW、教育相談コーディネーター、外部機関との密接な連携を通じた、支援を必要とする生徒一人ひとりへの支援体制の充実と強化を図る。	①部活動加入率65%を目標にして活性化を図る。特に文化部の加入率向上に努める。 ②定期的にコーディネーター会議を開き、戦略会議やケース会議を通して多様な生徒一人ひとりのニーズに対応できるような支援を実行する。	①部活動の活動紹介や大会日程などの情報をSNSで積極的に公開し生徒の関心を促し加入率の向上を図る。 ②各年次の教育相談担当者が支援の必要な生徒情報を共有し早期発見・早期対応に努める。教育相談に関する研修を実施して職員のスキルアップを目指す。	①部活動加入率が65%以上の目標を達成したか。文化部の加入率が向上したか。 ②定期的にコーディネーター会議を開き、戦略会議やケース会議を通して課題のある生徒に支援ができたか。教育相談に関する研修会を開催することができたか。	①部活動加入率は59.5%に下がってしまった。運動部・文化部共に加入率が低下してしまった。 ②月に一度コーディネーター会議を開催し、生徒の情報共有や生徒支援に努めた。また、外部機関と連携を図ることができた。	①運動部の加入率は2.2%低下、文化部の加入率は2.9%低下してしまった。部活動SNSを開設したので、SNSを活用して部活動加入率を向上させたい。 ②支援が必要な生徒の課題解決に向けて、外部機関との連携を一層深めていく。	かながわ子どもサポートドックを活かしたスクリーニングやプッシュ型面談の充実を図り生徒の自己肯定感の向上に努めて欲しい。 部活加入率の低下についてコロナの影響もあるがSNSを活用して部活動加入率を向上させたい。	①運動部・文化部共に目標設定値より5.5%活動加入率が低下した。今後も部活動加入率向上を図りたい。 ②引き続き月に一度のコーディネーター会議を開催し、生徒の情報共有や生徒支援に努める。また、外部機関と連携強化を図る。	①部活動加入率が低下した原因を検討し目標設定値より加入率の向上を図る。また、部活動SNSを活用して広報活動を活性化して部活動加入率を向上させたい。 ②学校全体として支援が必要な生徒の課題解決に向けて外部機関と連携強化し対応していく。
3 進路指導・支援	○産業社会と人間、総合的な探究の時間、4系列の科目選択を基盤とした、生徒一人ひとりの進路実現に結び付く、進路指導・支援体制の推進を図る。	①進路実現に向けた、生徒一人ひとりの主体的な取組を、担当職員が中心となり、全職員で支援できるよう、計画的な支援体制づくりを推進する。 ②計画的にICT環境を活用した、主体的な学びの推進につながる具体的な提案を計画的に行う。	①主体的な学びにつながるよう「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」の内容を精査する。積極的に外部機関やICT環境を活用して常に最新の情報提供に努める。 ②「学習クラブ」や「スタディサプリ」の活用を推進して資格検定試験及び進路希望者別模擬試験を積極的に実施する。	①校外との連携事業が円滑に実施できたか。実施後の振り返りアンケートの結果が好評であったか。 ②主体的な学びへの参加状況者数が増加しているか。「学習クラブ」や「スタディサプリ」の活用者が増加したか。資格検定試験及び進路希望者別模擬試験の受験者が増加したか。	①校外との連携は計画通り実施でき、生徒自身の振り返り結果が大変好評であった。また、各連携先からの意見も大変好印象であった。 ②資格検定試験の受験者及び合格者が大幅に増加した。日常的な自学自習の学習教材の活用数が伸び悩んでしまった。	①近隣上級学校との連携を益々活性化し、長期休業中や2月の入学選抜時期を活用した事業に積極的な参加を促す。 ②資格検定試験実施の広報活動を各教科と協働で行い、希望生徒の受験機会を益々増やすようにする。また、受験方法にマッチした進路別講習会を多く設定し、進路支援を行う。	資格検定試験の受験者及び合格者が大幅に増加しているがICTを活用した取り組みを図り充実させたい。 生徒一人ひとりの進路実現に結び付く進路指導や支援体制を図り職業観を身につけて欲しい。	①進路実現に向けた校外連携の計画では担当職員を中心に支援体制をつくり概ね計画通り遂行することができた。 ②資格取得を推奨し希望者に対して積極的に取り組んだ結果受験者数及び合格者が増えた。また、自学自習の学習教材の活用を推奨したが活用数が増加しなかった。	①校外連携を活性化させるため「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」の内容を精査し外部機関などを活用して生徒が積極的に参加するように促す。 ②資格取得に向けた取り組みについて積極的に広報活動を行い更なる資格取得率の向上を図る。また、進路実現に向けた進路支援を模索する。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月18日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	○「南が丘地区豊かな心を育む協議会」との連携を通して幼稚園・小中学校・地域自治会等との相互交流をさらに充実する。 ○ボランティア活動のより一層の充実とボランティア精神の涵養を図る。	①地域の小・中学校や自治会と連携を深め、教育活動の充実を図る。 ②ボランティア活動、あいさつ運動を中心とした地域との連携を深める。	①南が丘地区にある幼稚園・小・中学校との連携をさらに推進する。積極的に地域の自治会等の行事に参加して教育活動が充実するように連携を図る。 ②生徒へボランティア活動について情報発信を行い、積極的にボランティア活動へ参加することを促す。	①幼稚園・小・中学校との連携や地域の行事等に参加することができたか。 ②ボランティア活動に参加した生徒が増加したか。	①地域ぐるみあいさつ運動や地域に向けた公開講座を実施することができた。 ②徐々にボランティア活動への参加者が増えている。	①行動制限が無くなり、通常通り地域との連携ができた。 ②引き続きボランティア活動について情報発信を行っていく。	コロナの影響はあるが時間をかけて地域連携をしたい。 登下校中に活用できる施設などを提供して地域が生徒を見守る環境づくりも必要である。 中学校へ出向いて活動する場面があっても良いのではないか。	①南が丘地区にある幼稚園・小・中学校や自治会と地域連携を図り教育活動が充実した。また、あいさつ運動や地域に向けた公開講座を実施することができた。 ②ボランティア活動の情報発信を行った結果、ボランティア活動の参加者が増加傾向になった。	①引き続き南が丘地区にある幼稚園・小・中学校や自治会と地域連携に取り組み今後も積極的に自治会などの行事に参加して更なる教育活動の充実を図る。 ②ボランティア活動参加者数が増えている。今後も継続して参加者数が増加するよう促す。
5	学校管理 学校運営	○全職員が教育環境の変化に対応し、積極的に課題に取り組む学校文化を形成する。 ○学校運営協議会各部会の活性化を図り、地域とともにある総合学科高校を目指す。	①個人所有端末の活用を中心とした効果的なICTの利活用を一層推進する。 ②HPや学校紹介動画を活用した教育活動の広報を積極的に実施する。	①個人所有端末の活用研修会を開催して、全教科でICT活用実践例を共有するとともに、全職員で授業見学を促しICTを活用した授業改善を図る。 ②HPでは、学校行事ごとに更新を行う。本校の特色である3本柱(学習・進路・部活)の内容を中心に作成する。	①全職員を対象にICT活用研修会や全教科で効果的にICTを活用した授業を実施できたか。全教科でICTの利活用を踏まえた授業改善ができたか。 ②HPは定期的に更新ができたか。学校紹介動画は、本校の魅力を十分に伝えられているか。	①ICT利活用研修会を年2回(6月・10月)実施し、全教科でICTを活用することができた。 ②学校行事の様子等は、定期的にHP更新することができた。また、動画で本校の魅力を伝え、情報を迅速かつ正確に配信するよう努めた。	①今後は、ICTをより効率的に活用していくことが課題である。また、ICT機器の普及に伴い、機器の管理も課題となっている。 ②HPを定期的な更新や情報を整理することが課題である。	コンピューターの管理について貸出したコンピューターの返却方法や破損などの対応で職員の負担が掛からない方策を模索して欲しい。	①研修会の成果として職員全体が教科横断で情報共有しICTを活用した授業改善に取り組んでいる。 ②学校説明会やSNSを活用した広報活動によって本校の特色を紹介することにより説明会の参加者数も増加している。	①今後は、教科横断でのICT活用や授業だけではなく教育活動全般でICTを活用する場面を模索したい。 ②今後も本校の魅力特色の紹介や最新情報を提供するために迅速にHPやSNSの更新を行い配信したい。